

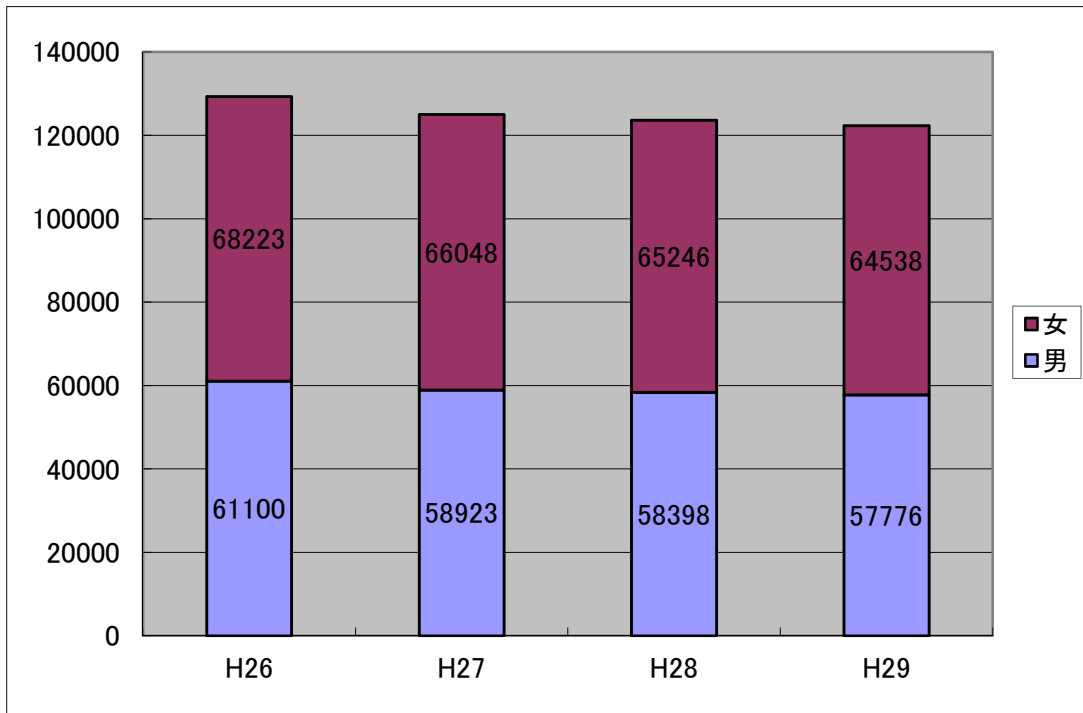
医療法人 久康会

平田東九州病院統計

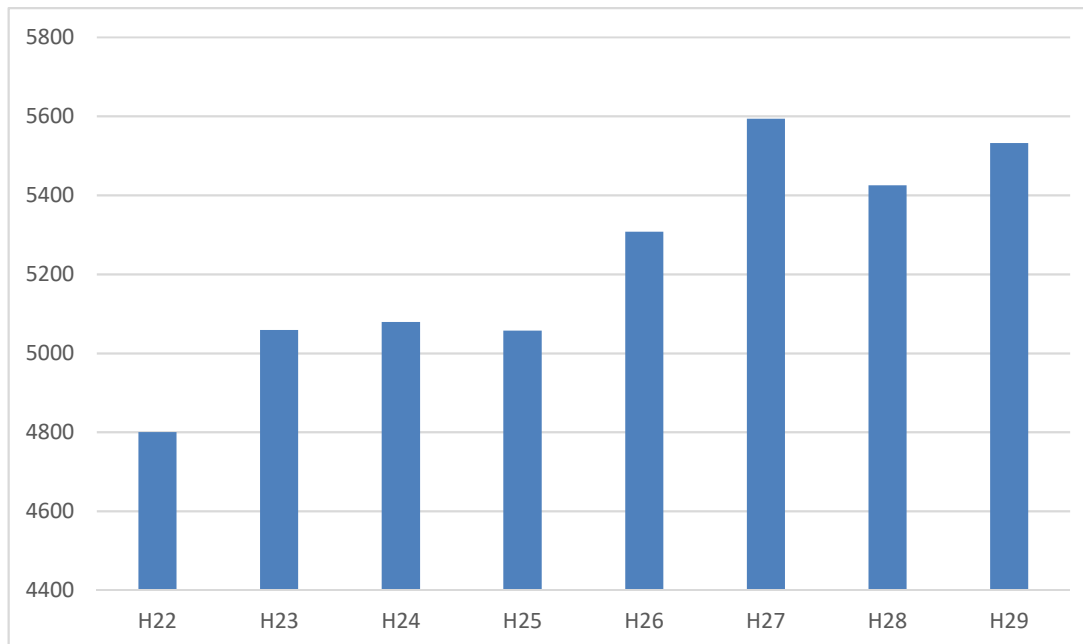
平成30年1月～12月

医療法人久康会 理事長
平田 耕太郎

延岡市人口推移



救急車出動件数



目次

- I.平成28年の平田東九州病院の活動内容
- II.医療法人久康会 経営理念、基本方針、宣言、心得
- III.平田東九州病院院長あいさつ
- IV.診療・運営管理統計

1.救急外来

イ) 脳卒中輪番日数	1
ロ) 輪番受入れ時間帯	2
ハ) 救急受け入れ実績	2
ニ) 救急受け入れ実績	3
ホ) 年別	3
ヘ) 年別	4
ト) NIHSS分析	4
チ) NIHSS分析	5
リ) t-PA	5
又) t-PA	6

2.検査

イ) 年間院内検査項目の検数推移	7
ロ) 末梢血液一般検査の年間件数推移とHb(10未満)低値の関	7
ハ) 尿検査年間件数推移と細菌検査の推移	8

3.放射線

イ) CT件数	9
ロ) 年別部位別CT件数	9
ハ) 一般撮影件数	10
ニ) 年別部位別一般撮影件数	10
ホ) MRI件数	11
ヘ) 年別部位別MRI件数	11

4.一般病棟

イ) 入院数	12
ロ) 退院数	12
ハ) 転出数	13
ニ) 入院転入別	13
ホ) 退院転出別	14
ヘ) 平均在院日数	14
ト) 稼働率	15
チ) 重症者比率	15

5.地域包括ケア病室

イ) 転入数	16
ロ) 転出数	16
ハ) 退院数	17
ニ) 退院先	17
ホ) 稼働率	18
ヘ) 在宅復帰率	18

6.回復期リハビリテーション病棟	
イ) 入院数	19
ロ) 退院数	19
ハ) 退院先	20
ニ) 紹介元	20
ホ) 疾患別(割合)	21
ヘ) 男女比	21
ト) 稼働率	22
チ) 重症者比率	22
リ) 在宅復帰率	23
ヌ) 重症者回復率	23
ル) 平均在院日数	24
ヲ) 平均リハ提供単位数	24

7.リハビリテーション部門	
イ) リハビリ単位数合計	25
ロ) 外来リハビリ単位数	25
ハ) 一般病棟リハビリ単位数	26
ニ) 地域包括ケア病棟リハビリ単位数	26
ホ) 回復期リハビリテーション病棟単位数	27
ヘ) 一日当たりリハビリ提供単位数(回復)	27
ト) 一日当たりリハビリ提供単位数(地域包括ケア)	28
チ) 休日体制加算	28
リ) FIM取得	29
ヌ) セラピスト数推移	29

8.栄養	
イ) 食事形態の推移	30
ロ) 災害時備蓄数	30
ハ) 嗜好調査	31
ニ) 人気メニューベスト5	31

9.緩和ケア病棟	
イ) 入院数	32
ロ) 退院数	32
ハ) 退院先	33
ニ) 紹介元	33
ホ) 疾患別	34
ヘ) 男女比	34
ト) 平均在院日数	35
チ) 稼働率	35
リ) 再入院	36
ヌ) 紹介時点の予後予測(月単位)	36
ル) 年代別	37
ヲ) 入院時PPI平均値	37
ワ) 除痛率	38
カ) 麻薬使用率	38
ヨ) 入院時の希望	39
タ) 入院時の主症状	39
レ) 入院前の治療有無	40

10.外来		
イ)	外来数	41
ロ)	特定疾患療養管理加算算定推移	41
ハ)	健診数	42
ニ)	時間外外来数	42
11.労務		
イ)	職員数	43
ロ)	職員男女比	44
ハ)	職員年齢構成	44
ニ)	職員年齢構成(非常勤)	45
ホ)	総残業時間	45
ヘ)	有給休暇取得	46
ト)	キッズランド利用者数	46
チ)	キッズランド年齢構成別・年間利用者推移	47
リ)	キャスト満足度調査(1)	48
	キャスト満足度調査(2)	49
12.安全管理部		
イ)	インシデント レベル別	50
ロ)	インシデント 種類別	51
ハ)	手指消毒薬使用率	51
13.教育指導部		
イ)	診療勉強会参加率	52
ロ)	全体研修参加率	53
14.社会的貢献		
イ)	病院探検ツアー参加数	54
15.地域連携		
イ)	全体 入院数	55
ロ)	ベット稼働状況	55
16.施設環境		
イ)	水道・電気使用量	56
ロ)	省エネ対策	56
17.クラーク		
イ)	外来ゲスト満足度調査(1)	57
	外来ゲスト満足度調査(2)	58
ロ)	入院ゲスト満足度調査(1)	59
	入院ゲスト満足度調査(2)	60
	入院ゲスト満足度調査(3)	61
18.情報管理部		
イ)	再入院率	62
ロ)	国際疾病分類別	62
ハ)	地域別国際疾病分類	63
ニ)	死因別割合	64

19.経営管理		
イ) 決算公告	65
ロ) 給与費 人件費率 医業利益率	65

久康会主なできごと

平成30年1月

- ・ 仕事はじめ式
- ・ 個人情報保護全体研修会

平成30年2月

- ・ 医療安全法定研修会

平成30年3月

- ・ 院内感染対策法定研修会
- ・ 看護学生卒業

平成30年4月

- ・ 平成30年度入社式
- ・ 新人研修
- ・ 交通安全全体研修
- ・ 聖心ウルスラ学園奨学金制度説明会

平成30年5月

- ・ 医薬品安全管理全体研修会

平成30年6月

- ・ 献血委員会全体研修
- ・ 転倒・身体抑制対策委員会全体研修
- ・ 医療ガス委員会全体研修
- ・ 看護学校訪問
- ・ 褥瘡対策委員会全体研修

平成30年7月

- ・ 食中毒対策全体研修会
- ・ 新人看護師研修
- ・ 第一種衛生管理者模擬試験
- ・ 医療メディエーター基礎編研修
- ・ 機能評価中間審査報告

平成30年8月

- ・ 医療機器安全管理委員会全体研修

平成30年9月

- ・ 医療安全法定研修会
- ・ さわやかカレッジ講座(市民公開講座)

平成30年10月

- ・ 延岡高校メディカルサイエンス科研修受け入れ
- ・ メンタルケア・ハラスメント全体研修会
- ・ 役職者選挙
- ・ 土々呂浜まつりにて健康・栄養相談開催

平成30年11月

- ・ 院内感染法定研修会
- ・ 九州保健福祉大学就職説明会

平成30年12月

- ・ 防災訓練
- ・ 餅つき

【経営理念】

自分が受けたい医療、

または家族に受けさせたい医療を目指します

R・A 【基本方針】

私たちは地域のみなさんの、

- R・A・1 1. 疾病発生予防を目指します
- R・A・2 2. 住み慣れた地での生活支援を目指します
- R・A・3 3. 期待に応えられる医療を目指します
- R・A・4 4. こどもたちを育む医療を目指します
- R・A・5 5. 保健衛生の向上と研究を目指します

R・B 【宣言】

- R・B・1 ・安全な医療を提供します
- R・B・2 ・希望の医療を提供します
- R・B・3 ・プライバシーを厳守します
- R・B・4 ・科学的根拠に基づく医療を提供します
- R・B・5 ・100%満足できる最高水準の医療を提供します
- R・B・6 ・地域の健康を増進し禁煙を勧めます

R・C 【心得】

- R・C・1 ・全ての人に笑顔とあいさつ
- R・C・2 ・決められたルールは必ず守る
- R・C・3 ・身の回りを美しく清潔に
- R・C・4 ・仕事に生きがい

IV.診療運営統計

私達は、目標に「100%満足できる最高水準の医療を提供します」と、謳っています。ここで云う、最高水準とは最先端医療とか高度専門医療を指しているのではありません。病院として当たり前に行なうべきことを、100%当たり前に行なっていこうというものです。

例えば、入院された患者さんや家族さんに病状を理解されるまで説明するとか、入院される前にベッドマット、ふとん、シーツ、枕、カーテンなど消毒済のものを用いるとか、車椅子やベット、医療材器を常に清潔に保ち、施設内を上品に落ち着きのある環境にし、嫌な臭いや音をさせない、目障りなものを置かないなどを行なっています。

トイレや洗面所などが、汚いなどもっての外という気持ちです。

その中で特に大切にしていることは、皆さん方全てに治療の目標とその方法を示し、皆さんとその方法を共有していくということです。

患者さんを、同じ医療のものさしで測り、良い点、まずい点を見出し、多職種で目標を立て、目標を共有し治療をしていこうというものです。

長期・短期目標を皆さんに知っていただき、どのような方向に今、向かっているのかを知っていただいた上で、治療を受けていただき、共に疾病と向かいあってこそ、お互いに納得のできる治療や、ケア、リハビリができると考えます。

これからの医療は「先生におまかせします」という医療ではなく、みんなで理解し、みんなで努力していく医療が必要と考えます。

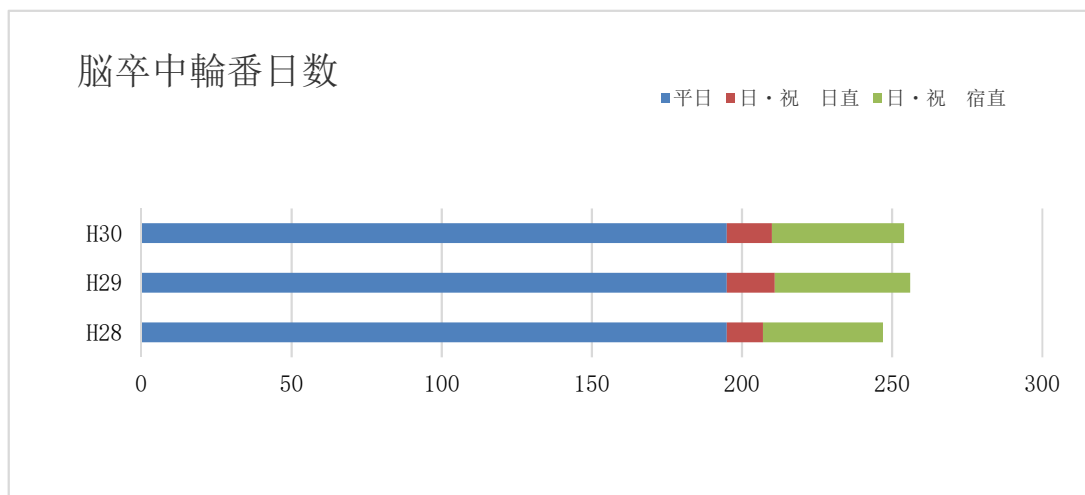
では、具体的に見ていきましょう。

1.救急外来 救急外来主任 小野 健史

イ) 脳卒中輪番日数

【目的】

延岡市脳卒中輪番体制における当院の当番日数の可視化。
恒常的に輪番体制を遂行できてるかの指標。



コメント

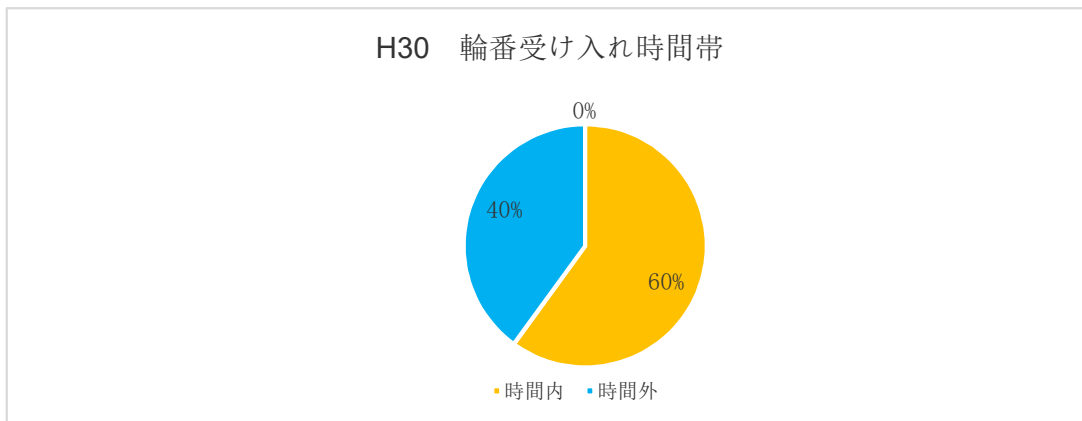
直近3年間において、大きな日数の変化はない。この事から、安定して脳卒中輪番体制を遂行していると評価できる。また、日数の軽微上昇については他の医療機関の輪番日を代行した件数が含まれている。

ロ) 輪番受け入れ時間帯

【目的】

輪番での受け入れが発生した時間帯の内訳の把握。

時間内:①午前9時～午後5時まで



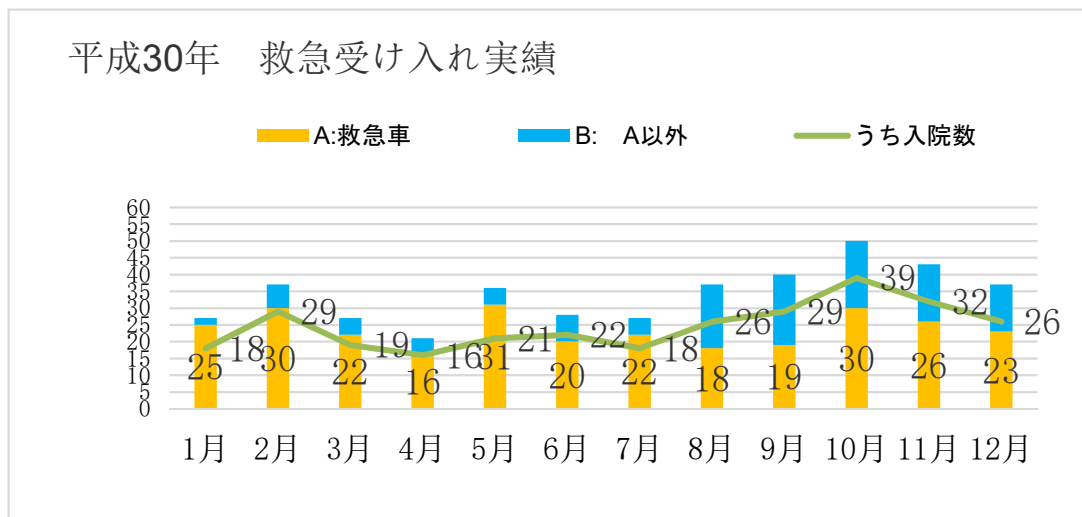
コメント

H30において、時間内での受け入れ件数が約10%上昇している。昼間の時間帯で、他医療機関や救急要請の依頼で脳卒中トリアージ以外の症例も受け入れをおこなった事が起因していると推察。

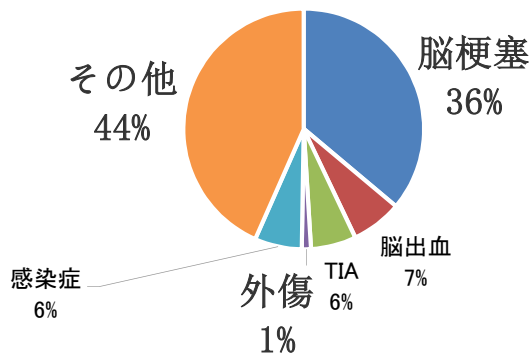
ハ) 救急受け入れ実績

【目的】

直近3年間に於ける月別での、救急受け入れ実績、症例内訳の可視化。



平成30年 症例内訳



コメント

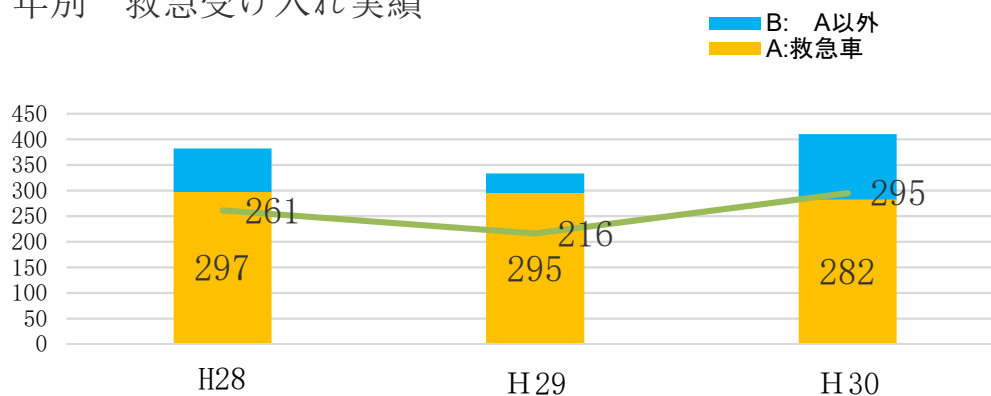
受け入れ件数の上昇に伴い、各月で入数も比例して増加しているのは、直近3年でも共通している。H30年においては、10月が最も件数が多かったが、過去と比較した場合でも関連性は特にはない。症例の内訳としては、脳梗塞の割合はほぼ変動がない。H30年は出血を含めた脳卒中割合は約40%となっていた。

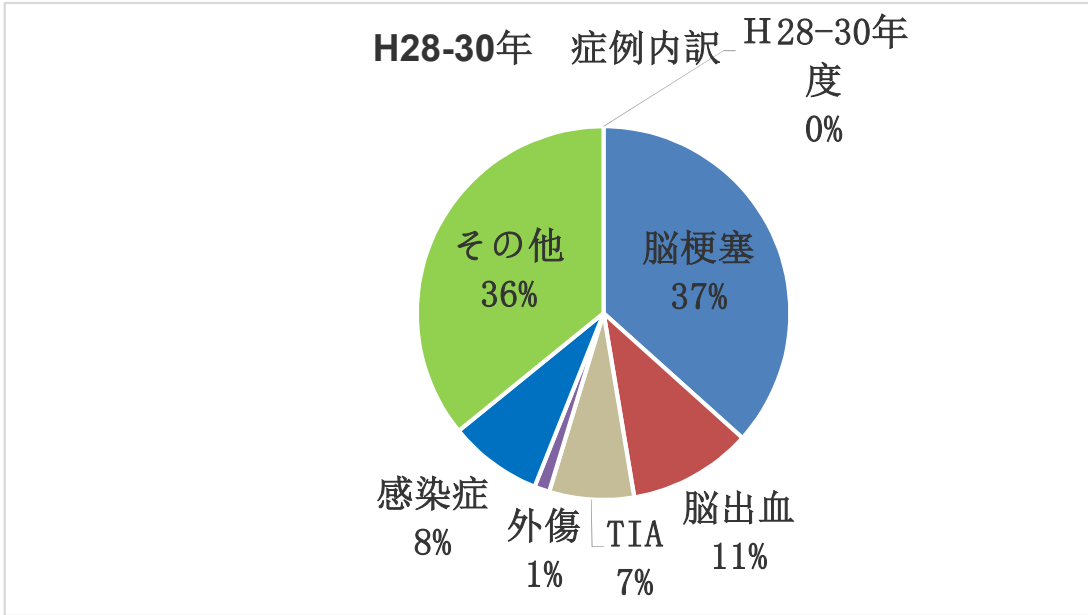
二) 年別

【 目的 】

直近3年間に於ける各年総数での、救急受け入れ実績、症例内訳の可視化。

年別 救急受け入れ実績



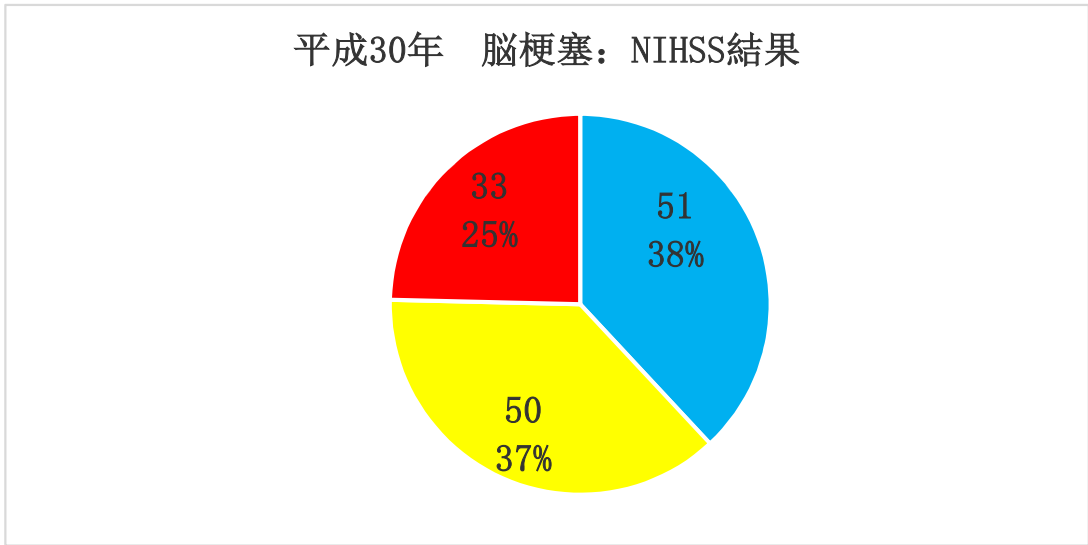


コメント
 昨年を大きく上回る受け入れの増加となったが、救急車での差は軽微である。病態として軽症であり、移動方法として救急車以外での受診数の増加が影響したためと推察される。
 症例内訳としては、月別と同様に脳卒中(脳梗塞+脳出血)の割合は約49%であった。

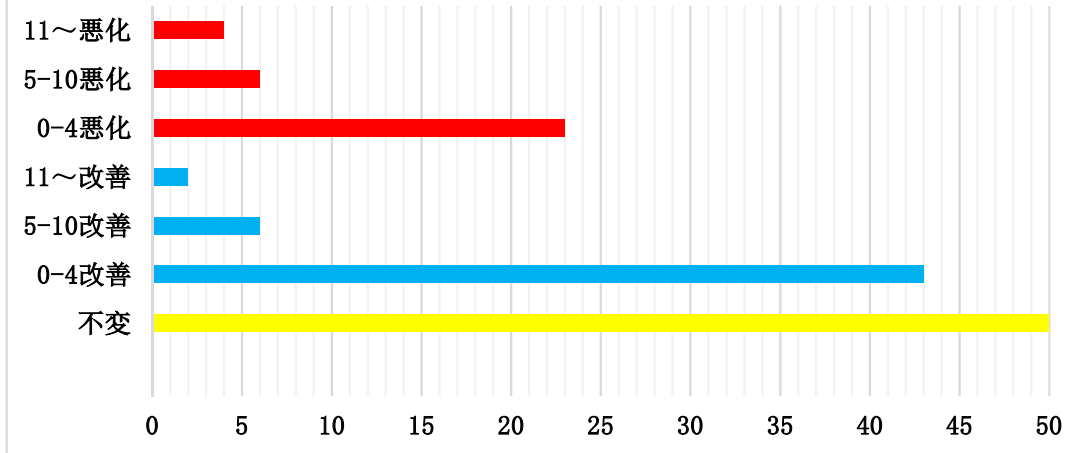
ホ) NIHSS分析

【 目的 】

急性期治療前後におけるNIHSS(脳卒中重症度評価)の結果から治療実績の指標として可視化するため



平成30年 NIHSS点数の詳細



コメント

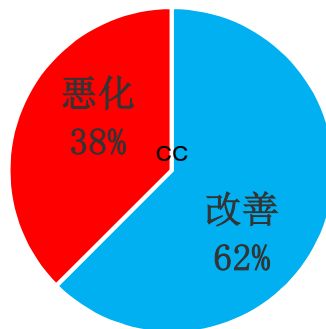
改善群としては約40%で、悪化では約25%。ともに0-4点以内での推移が最も多い結果となった。
悪化した要因としては、梗塞の種類(脳血栓症/脳塞栓症)、年齢、合併症等の因子も大きく影響してくる。
より正確な分析を行う上では、今後のデータ抽出における課題とされる。

へ) t-PA

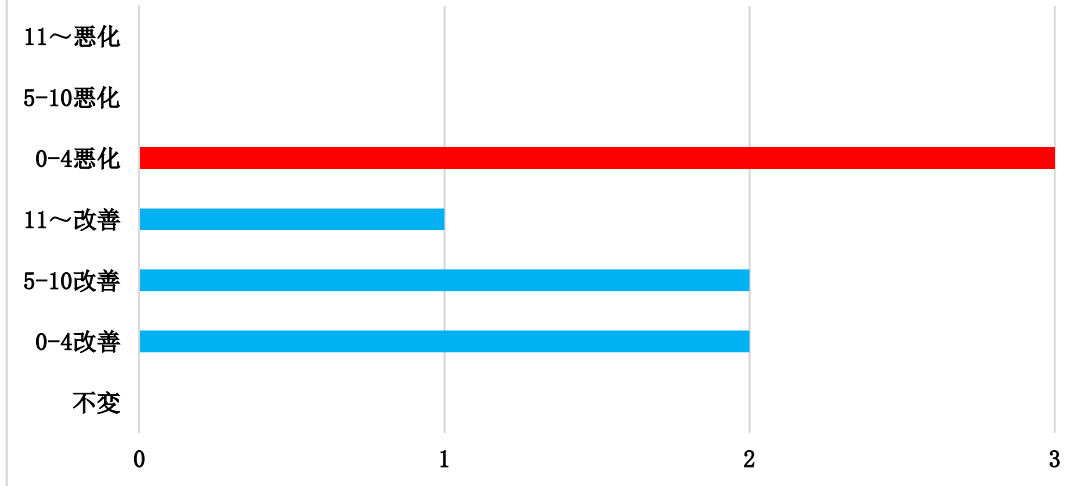
【 目的 】

H30年までの当院におけるt-PA療法(血栓溶解療法)の治療実績についてNIHSS点数より可視化。

t-PA療法 NIHSSでの予後評価



平成30年 NIHSS点数の詳細



コメント

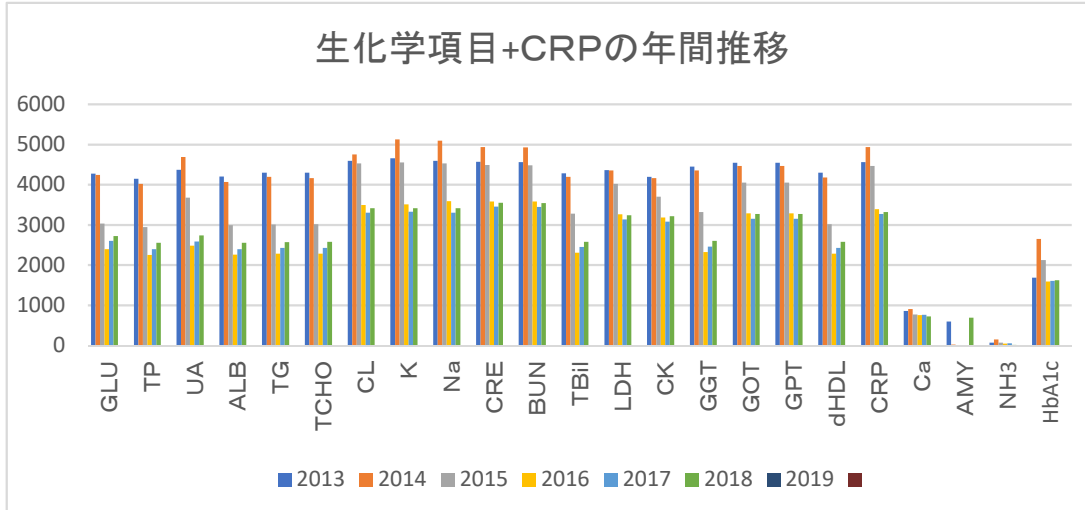
改善の割合は約70%、悪化の割合は約30%となった。改善では大きな点数の変動も含まれているが、悪化においては、軽微な点数の変動のみに留まった。(5点以上の悪化なし)

2. 検査 臨床検査科 主任 竹内 幸子

イ) 年間院内検査項目の検数推移

【目的】

年間検体数を比較し、院内の検査数及び傾向を把握するため



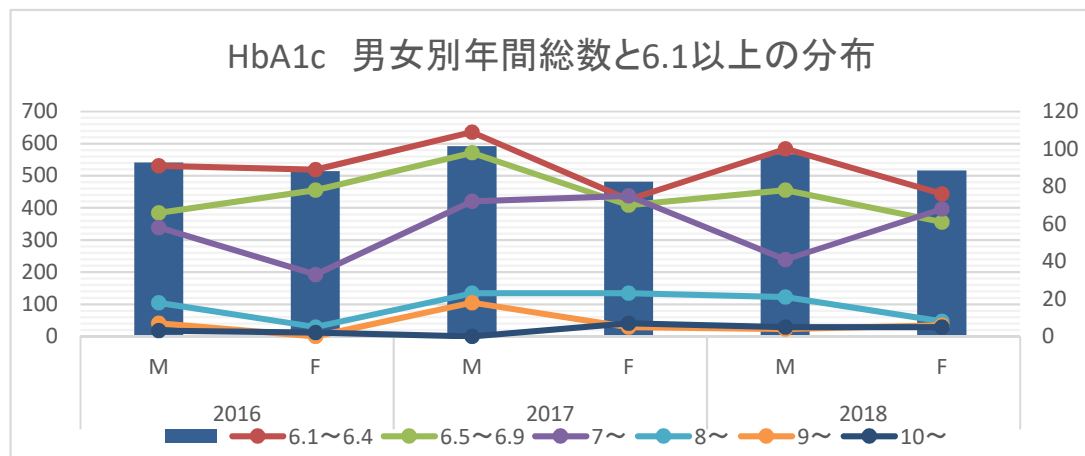
コメント

2016年以降 ほぼ安定した出検傾向である。

ロ) 末梢血液一般検査の年間件数推移とHb(10未満)低値の関係

【目的】

年間件数を比較するとともに 貧血との関連性を加えた。



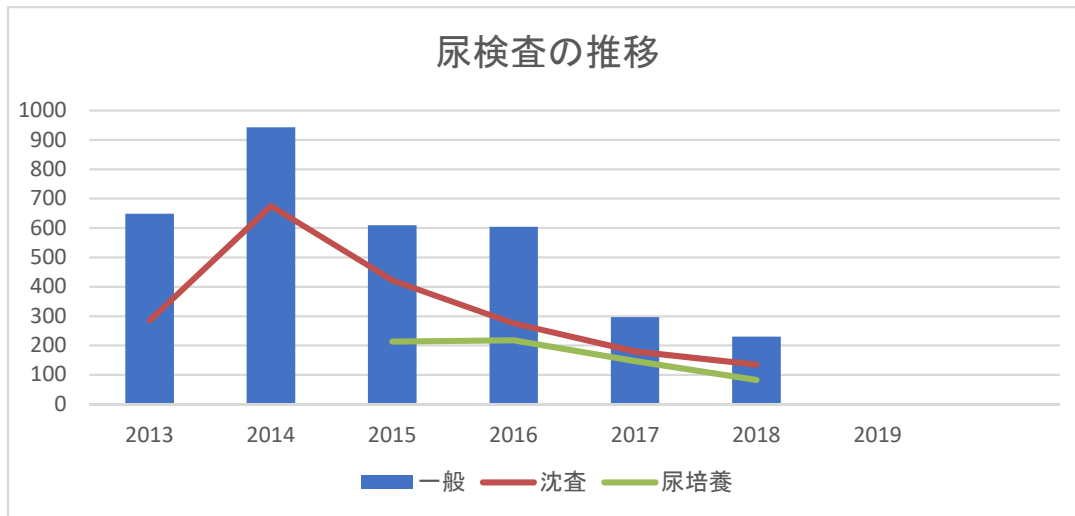
コメント

当院におけるHbA1c の年間件数の比較とHbA1cの値 6.1以上の分布図を作成した。性差では、HbA1c8以上の割合は男性>女性であった

ハ) 尿検査年間件数推移と細菌検査の推移

【目的】

尿検査の年間件数比較と尿培養の推移



コメント

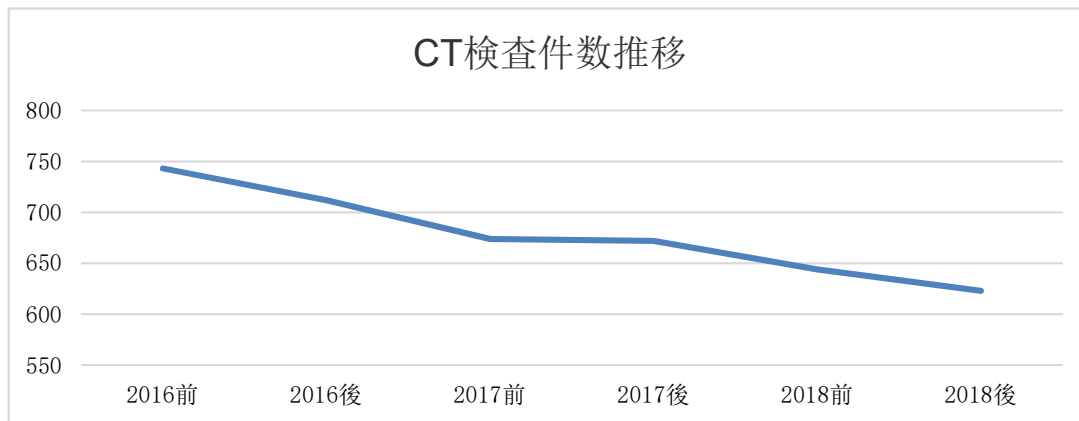
尿検査は減少傾向にあり、それに伴って尿培養検査も 減少している。

3. 放射線 診療放射線科科長 安達 尚平

イ) CT件数

【目的】

検査数の増減を月別に比較し、機器の使用頻度を把握。
場合により、保守などの見直しを行う。



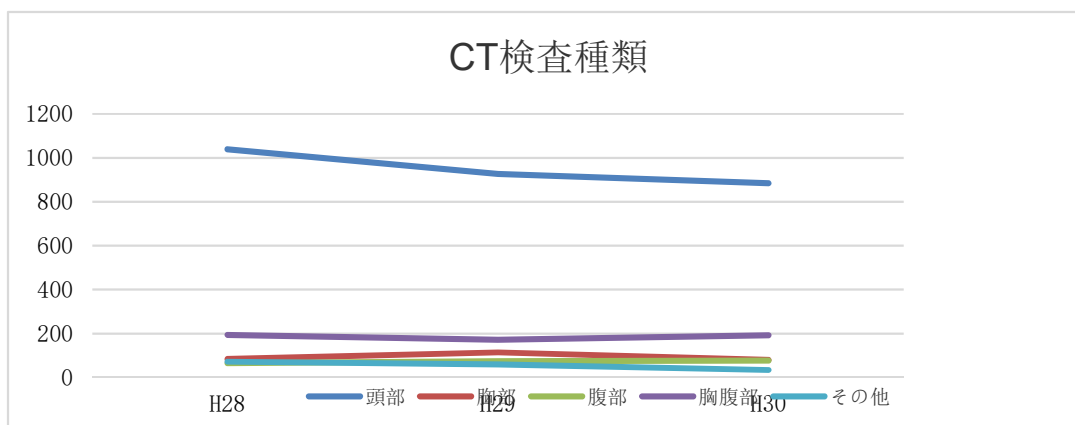
コメント

半期ごとの推移では減少傾向にある。
必要十分な検査を行えているか、また検査区分について詳細に分析し
今後の検査機器運用について検討すべきである。
2019年分の分析ではより進んだ分析を行う

ロ) 年別 部位別 CT件数

【目的】

再現性の良い画像提供のため。
検査数が少ない物に関しては、技師同士で撮影方法を見直す。



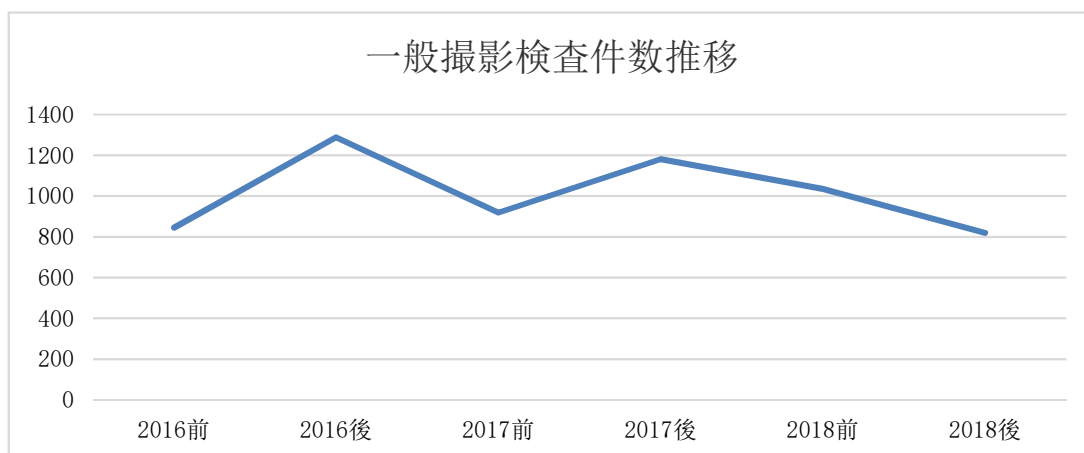
コメント

脳卒中トリアージの影響もあり頭部の検査の比率が高い
種類別推移では頭部の検査数が減少傾向にある。
減少理由を模索し、検査機器の運用を再検討する。

ハ) 一般撮影件数

【目的】

検査数の増減を月別に比較し、機器の使用頻度を把握。



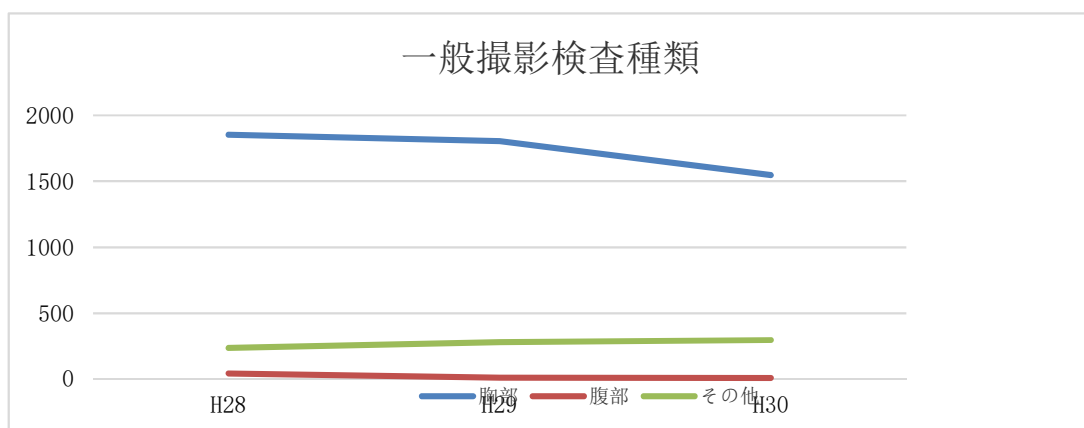
コメント

定期検査の一部中止の影響もあり、若干の減少傾向にあるか。
今後の検査機器運用について検討すべきである。
2019年分の分析ではより進んだ分析を行う

二) 年別 部位別 一般撮影件数

【目的】

再現性の良い画像提供のため。
検査数が少ない物に関しては、技師同士で撮影方法を見直す。



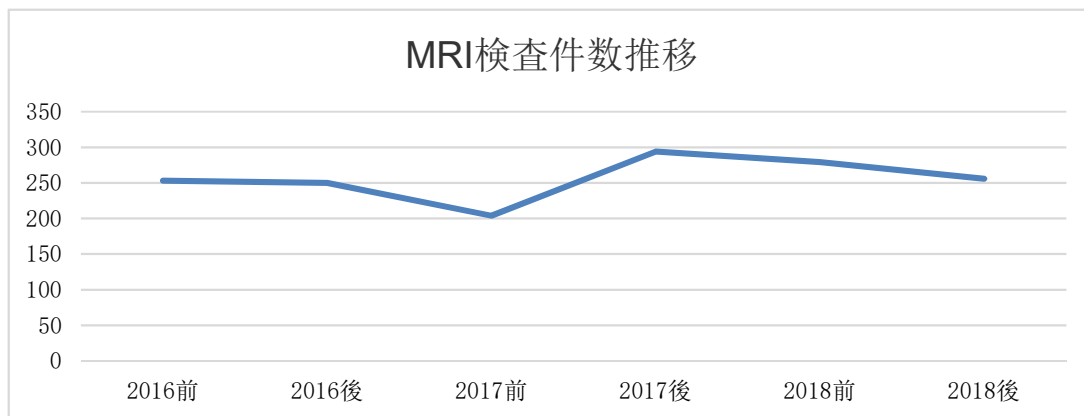
コメント

ほとんどの検査が胸部XPのまま、例年通り推移している。
基本通りにいかない検査も数例あり、対象の検査については
随時技師同士で確認しあい、記録に残すよう努めている

ホ) MRI件数

【目的】

検査数の増減を月別に比較し、機器の使用頻度を把握。
 場合により、保守などの見直しを行う。



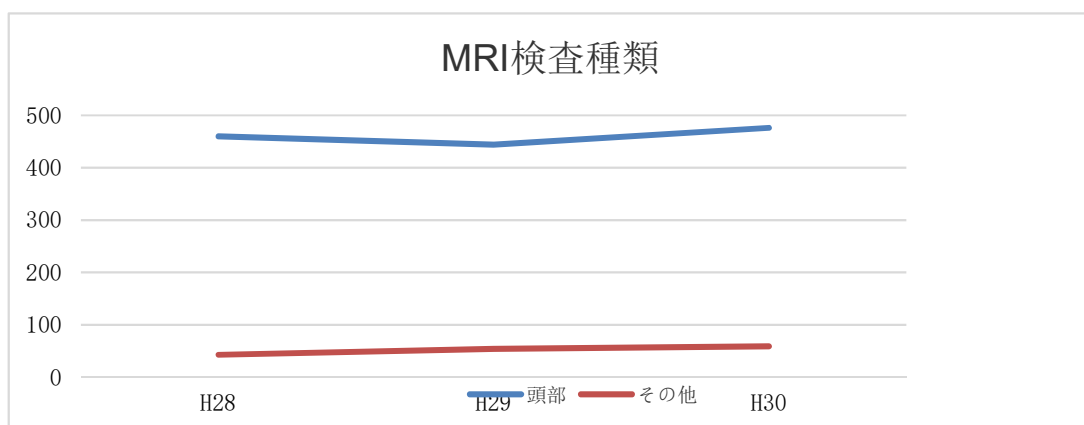
コメント

2017年前半にMRI検査機器の入れ替えがあったため減少している。
 以降外部からの検査依頼があり、若干ではあるが、入れ替え前より増加。
 必要十分な検査を行えているか、また検査区分について詳細に分析し
 今後の検査機器運用について検討すべきである。

へ) 年別 部位別 MRI件数

【目的】

再現性の良い画像提供のため。
 検査数が少ない物に関しては、技師同士で撮影方法を見直す。



コメント

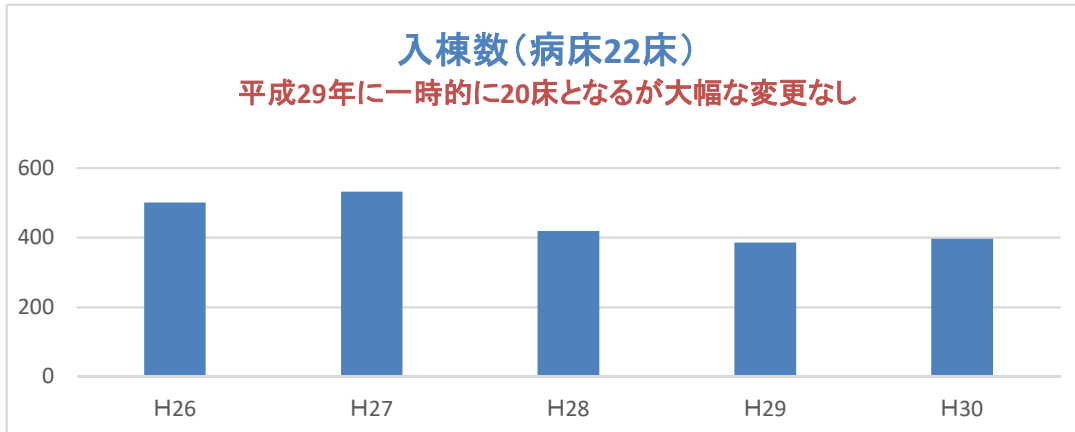
脳卒中トリアージの影響もあり頭部の検査の比率が高い
 その他の検査が2017年MRI入れ替え後月数件検査依頼があり
 若干ではあるが検査件数が上昇している。整形領域の検査を
 スムーズに実施できるように技師の教育にも注力し、検査拡大を図りたい

4.一般病棟 一般病棟 部長 藤原 貢美

イ) 入院数

【目的】

過去2年間内での入院総受け入れ件数を学期ごとに比較、分析するため。



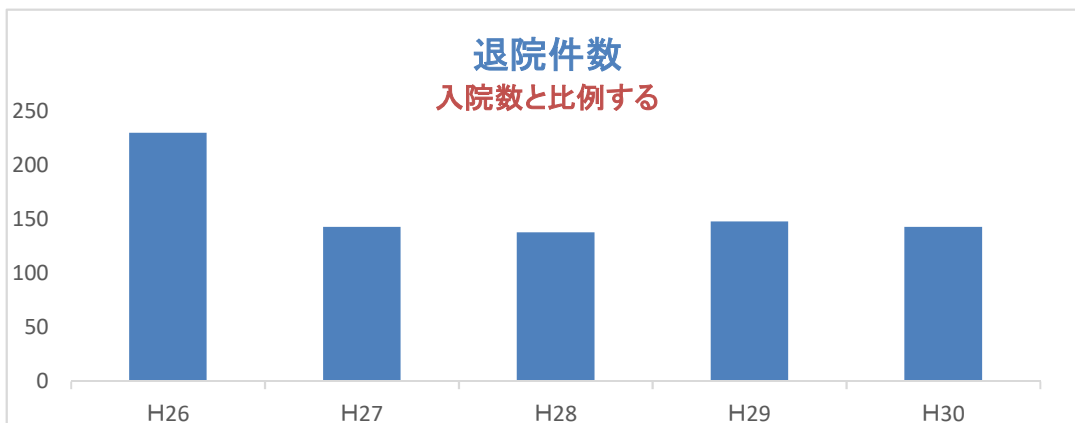
コメント

平成29年に一時的に20床となるが大幅な変更なし

ロ) 退院数

【目的】

過去2年間内での退院件数を学期ごとに比較、分析するため



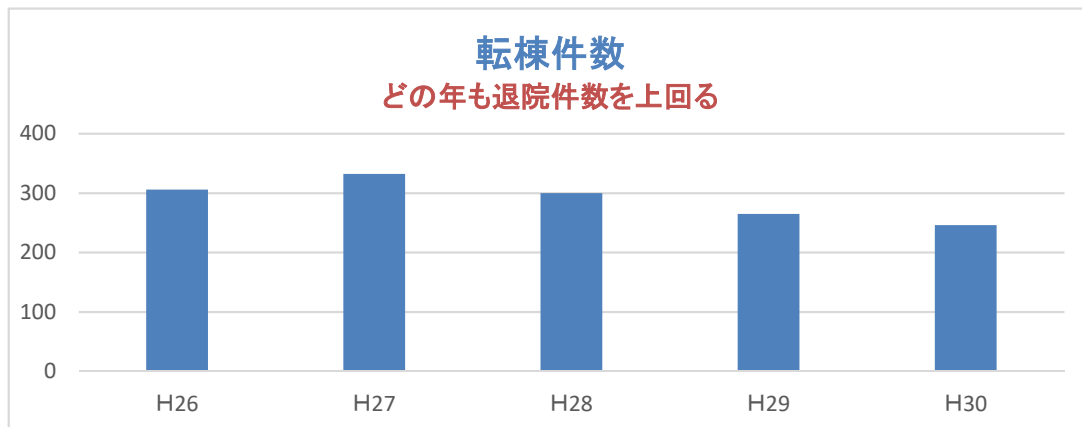
コメント

入院数と比例する

ハ) 転出数

【目的】

過去2年間内での転出件数を学期ごとに比較、分析するため。



コメント

どの年も退院件数を上回る

二) 入院・転入別

【目的】



コメント

自宅からの入院が大半、他病院・施設からの入棟はH27年以降減少傾向

木) 退院・転出別

【目的】

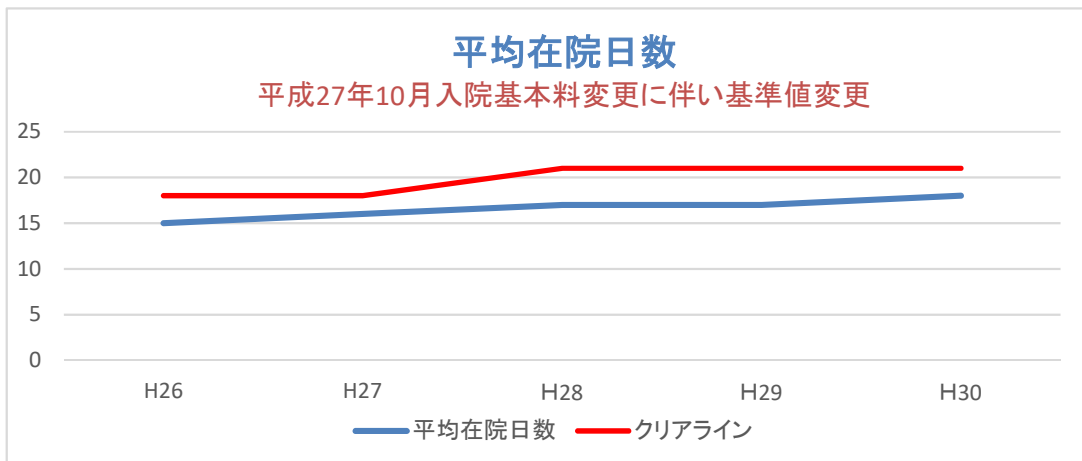


コメント

他病棟への転棟が最多

へ) 平均在院日数

【目的】



コメント

平成27年10月入院基本料変更に伴い基準値変更

ト) 稼働率

【目的】

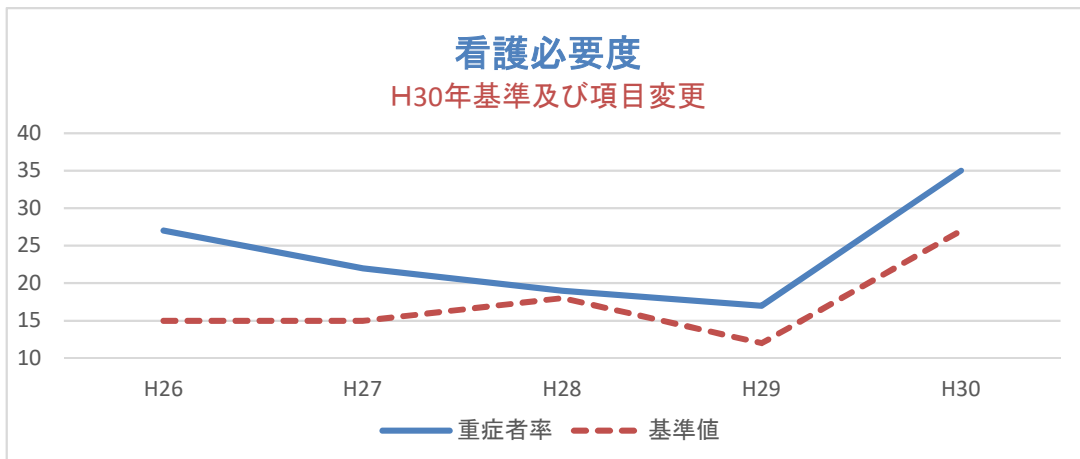


コメント

入棟件数と一致しないので、信憑性は低い

チ) 重症者比率

【目的】



コメント

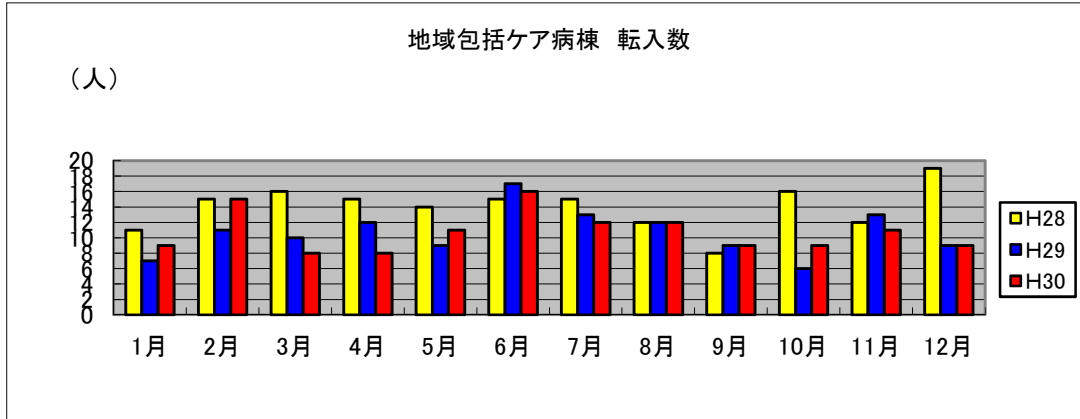
H30年基準及び項目変更

5.地域包括ケア 一般病棟 部長 藤原 貢美

イ) 転入数

【目的】

過去2年以内での転入内訳件数を学期ごとに比較、分析するため

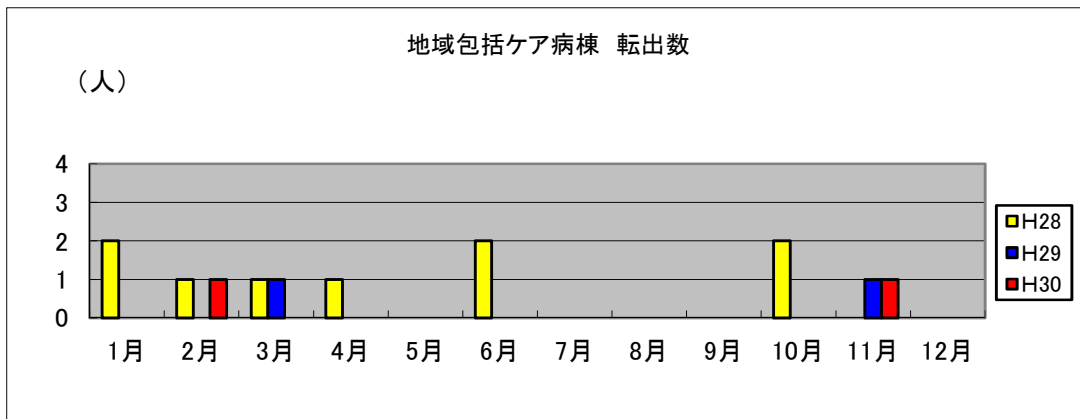


コメント

ロ) 転出数

【目的】

過去2年以内での転出内訳件数を学期ごとに比較、分析するため

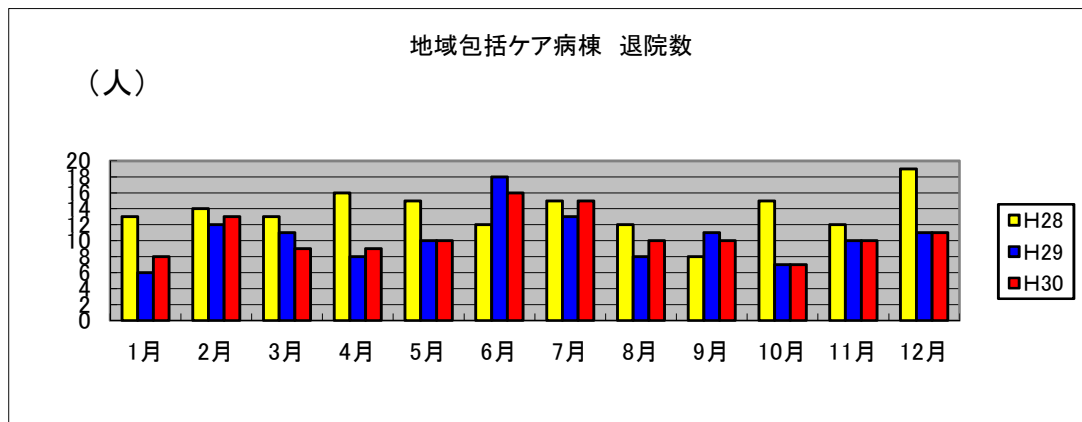


コメント

ハ) 退院数

【目的】

過去2年以内での退院件数を学期ごとに比較、分析するため

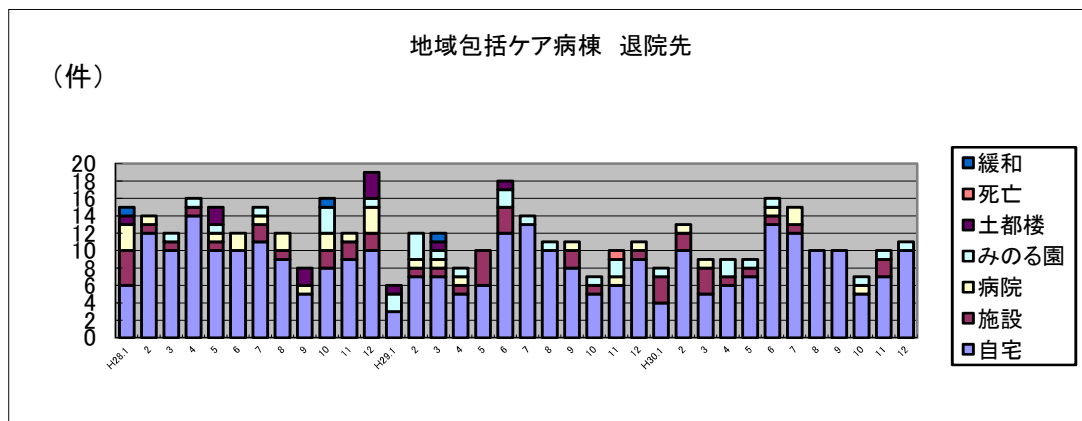


コメント

二) 退院先

【目的】

過去2年以内での退院先を学期ごとに比較、分析するため

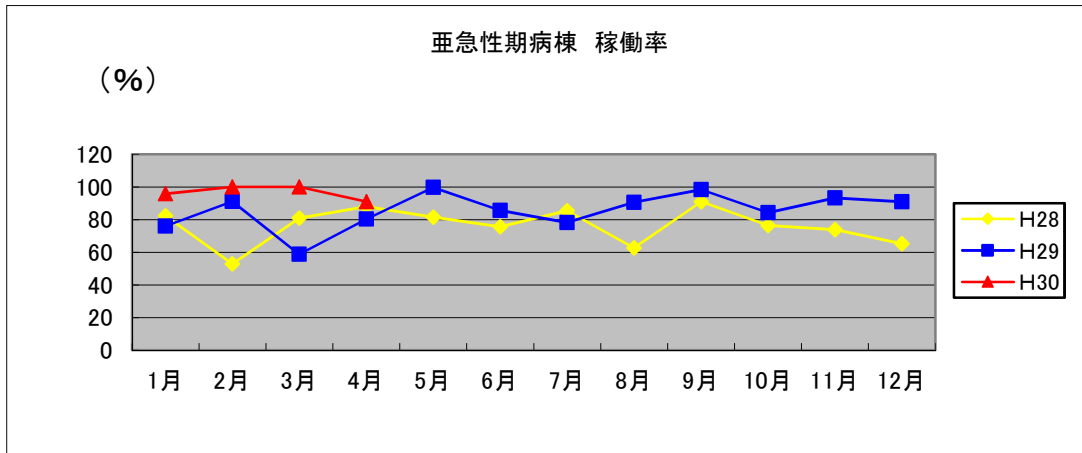


コメント

ホ) 稼働率

【目的】

過去2年間で内の転入内訳件数を学期ごとに比較、分析するため

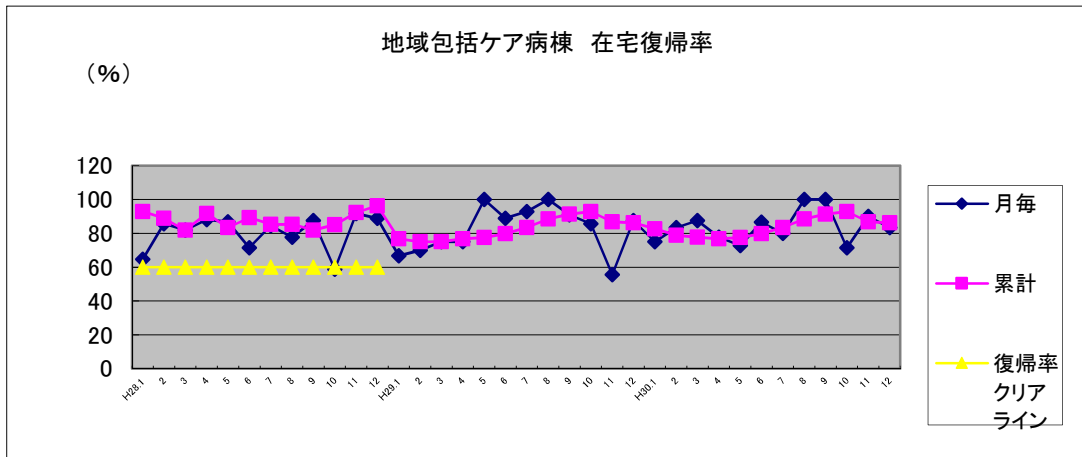


コメント

へ) 在宅復帰率

【目的】

過去2年間で内の転入内訳件数を学期ごとに比較、分析するため



コメント

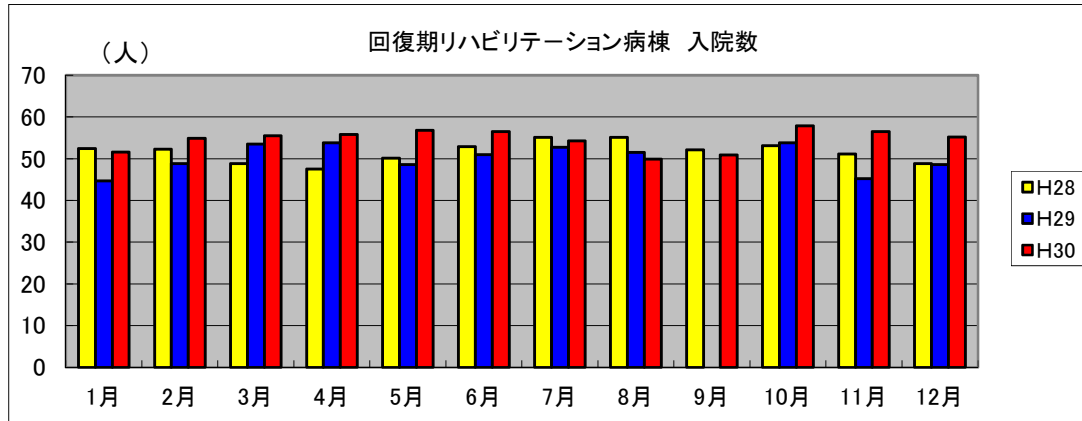
6.回復期リハビリテーション病棟

回復期リハビリテーション主任 飯干 文代

イ) 入院数

【目的】

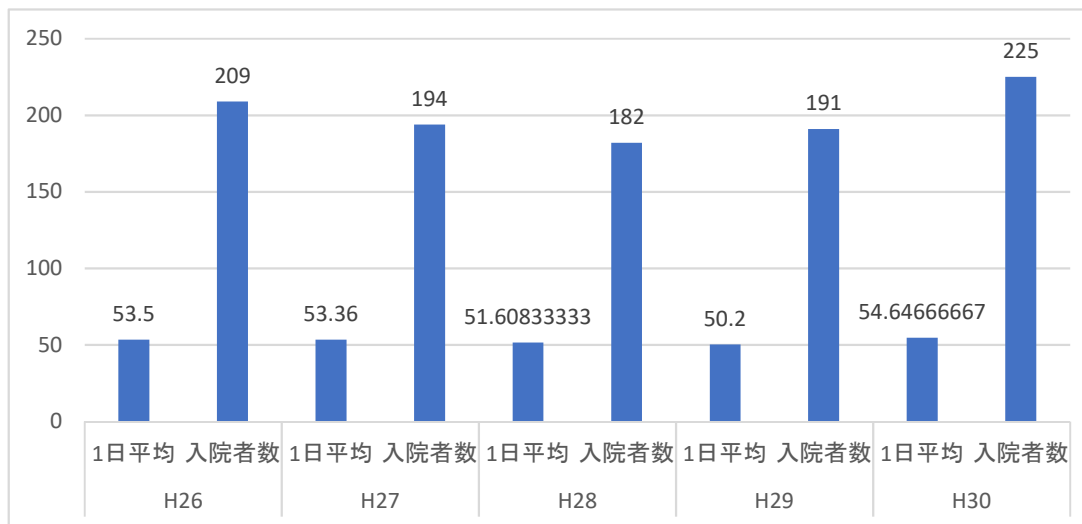
年度、月々によつての入院数の傾向を読み取り、ベッドコントロールなどへの活用や回復期病棟の必要性を知る為。



コメント

平成30年は過去二年間と比較して入院者数が増加傾向であった。
 28年より43名 29年より34名増加していた。
 大きな変動はないが、30年は夏場の8月に若干入院が
 少ない時期であった

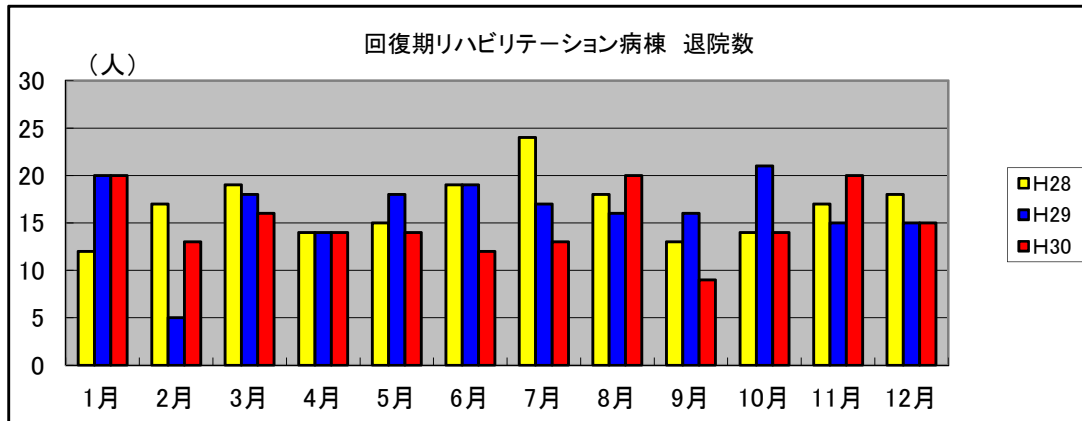
直近5年(入院数)



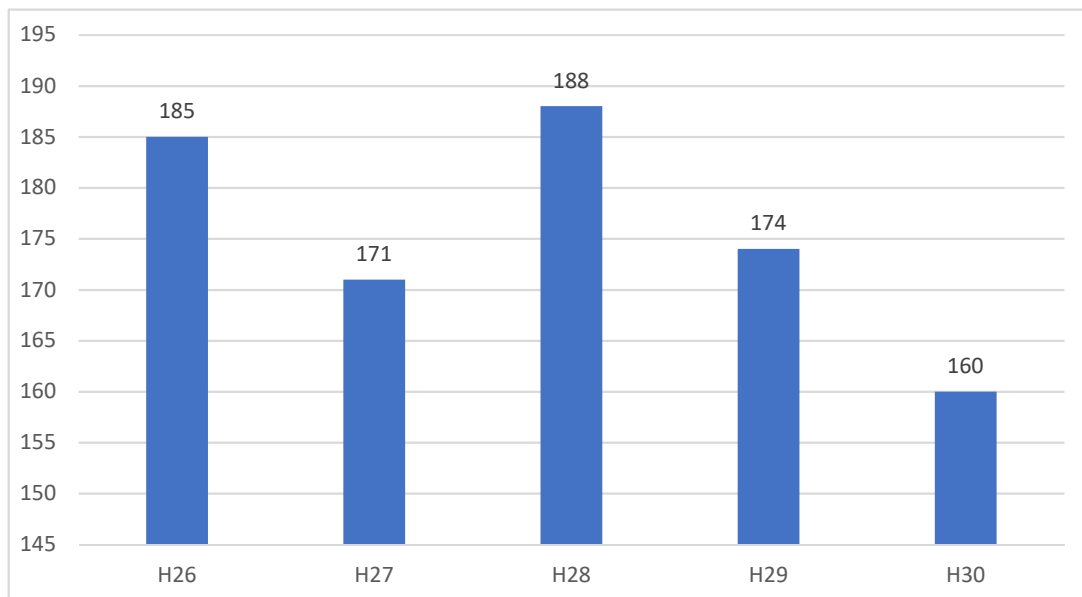
ロ) 退院数

【目的】

年度、月々によつての退院数の傾向を読み取り、ベッドコントロールなどへの活用や回復期病棟の必要性を知る為。



直近5年(退院数)



コメント

退院者数は月ごとに若干の差が生じてはいるものの、過去3年間と比較して差はない。